

ICAN Monthly Report 12



リニューアルオープン当日のカリエカフェ

国立フィリピン大学にリニューアルオープン

<路上の子どもたちの事業：担当スタッフからのレポート>

11月24日、元路上の若者たちが運営する「カリエカフェ」が、フィリピンの最難関校である国立フィリピン大学 Diliman 校の構内にリニューアルオープンしました。マニラ首都圏ケソン市に位置する同校は、493ヘクタールという広大な敷地を持ち、多くの学生や教授、一般市民で賑わっているため、これまで以上の収益が見込めると考えています。フィリピン大学の担当者もカリエカフェの趣旨に賛同してくださり、今後、同校の学生を巻き込んで、運営していく予定です。

しかし、これまでのカリエカフェの運営は決して平坦なものではありませんでした。今年3月に別の場所でオープンしたものの、売り上げがあまり伸びず、メンバーは家族から、カリエカフェではなく、路上に戻ってお金を稼ぐことを要求されるようになっていました。そこで私たちは、より売り上げが見込め、路上の子どもの状況を効果的に訴えることができるフィリピン大学に移転するとともに、メンバーの家族の理解を得ることに注力してきました。アイキャン職員が各家庭を何度も訪問し、カリエカフェの目的や社会に与える影響、メンバーの想いやアイキャンのサポート体制、そして今回の今後の売り上げ予測について話しました。最初はなかなか理解を得られない家族もいましたが、徐々に反応が変わり、「本人が望むように、もう一度カリエカフェで働かせてみようと思う。家族の協力が不可欠だと分かったから、できる限り応援したい」、「家計に余裕がなく、収入がないと困るという事実は変わらないが、今後の体制の改善についても聞けたので、もう一度期待したい」といった言葉をもらえました。

こうして晴れてリニューアルオープンしたその日、学生や教授が多数来店し、カリエカフェの趣旨や背景を知った方々が、「応援しているから頑張る」とエールを送る場面も見られました。カリエメンバーのエルビーさん(20歳)は、「私たちの希望であるカリエカフェをここでオープンできてとても嬉しい。沢山の人にパンを楽しんでもらい、また路上の子どもについても理解してもらいたい」と笑顔で話しました。

路上にいた若者たちがこのカフェの運営を通して自立していくには、今後も様々な困難が伴うかもしれません。アイキャンは、カリエのアドバイザーとして、これからもともに歩んでいきます。



ICAN マニラ事務所
羽根友里絵 (はねゆりえ)
～プロフィール～
津田塾大学英文科卒業。
東京、香港、台湾で企業
PR / CSR のコンサルタントとして大手広報代理店で勤務。2016年1月
に入職、3月より現職。

Project Site



●はアイキャン事業地

認定NPO法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

Close up

I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全6事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

紛争の影響を受けた子どもたち 11月2・5・12・20・27日/イエメン 4,540世帯に食糧を提供



タイズ州の計4,540世帯に、小麦粉、砂糖、米、調理用油、粉ミルクを提供しました。総重量70kg以上のため、高齢者世帯や男手のない世帯には、状況に応じて家までの運搬も手伝えました。住民からは、「タイズ市は、街への全ての入り口が封鎖され孤立しているため、何を得るにも長蛇の列です。その中で、このように食糧を届けてくださることに、とても感謝しています。」との声が上がりました。

紛争の影響を受けた子どもたち 11月21日/ジブチ 他の模範となる子どもにメダルを



「子どもの広場」の活動に78名が参加し、ハンドボールを行いました。その後、これまでの活動で、「子どもの広場」運営ボランティアの手伝いなど、他の子どもの模範となる行動を度々取っていた4名の子どもに、折り紙で作ったメダルを授与しました。ムセイド君(11歳)は、「お手伝いをしてもらった折り紙のメダルがとっても嬉しかった。家族にも見せて褒められた。」と話しました。

II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

国際理解教育事業 11月30日/愛知 元路上の子どもと大学生らが交流

児童養護施設「子どもの家」の子ども6名とのスカイプ交流を日本事務局で実施し、21名が参加しました。うち15名は、今年2月にスタディツアーに参加した大学生が、学内やイベントでチラシを配るなどして呼びかけて集まりました。終了後、「自分たちにとって当たり前のことを‘夢’と言っていたのが衝撃的だった」などの感想があり、後日語学教室スマイルチケットに入会した人もいました。



MY アイキャン事業 11月11日/愛知 ハガキのカウント作業を分かりやすく

ご寄付の書き損じハガキが沢山届く年始は、大勢のボランティアの方がカウント作業に携わります。そこで、ボランティアグループ WE CAN のメンバー3名が、ハガキカウントの際の注意点をまとめた掲示板を作成しました。Aさんは、「初めての人に分かりやすく作るのは意外と難しかった。3人で良い物を作れたと思うが、実際に使ってもらって改善の余地があれば改善したい」と話してくれました。



今月の Announcement

年賀状の季節、書き損じてしまった、余ってしまったハガキがありましたら、是非アイキャンにお送りください。ハガキ1枚が、フィリピンではご飯2杯分の価値に相当します。〒460-0011 名古屋市中区大須3-5-4 矢場町パークビル9階 アイキャン宛

今月の Media

- 11月14日 Djibouti Inter-Agency Update #48 難民キャンプでの活動
- 11月21日 中日新聞 路上の子どもとカブ(半田工業高校) / 11月22日 中日新聞 路上の子どもとカブ(聖光女子高校)
- 11月27日 まにら新聞 マニラでのチャリティコンサート / 11月27日 フィリピン primar マニラでのチャリティコンサート

今月の ICAN 名人

◎森泉さん、息子さんと一緒に応援してください、ありがとうございます!

マンスリーパートナー 森泉哲さん 「人とのつながりを大切にしたい」

インタビュー: 12月2日

自分が教員をしている大学の授業で、アイキャンのスタディツアーに昨年参加した学生の発表を聞き、「自分の人生を変えるような経験だった」という言葉に刺激を受け、自分も参加することを決めました。中学生になった息子にも、日本がいかにか物質的には恵まれているかを感じる良い機会と思い、8月のツアーと一緒に参加しました。

現地では、頭で理解していた、しようとしていたことを実際に見聞きできました。例えばパヤマスでは、ごみ処分場の圧倒的な光景を見、強烈なおいを嗅ぎ、「生活のためにはごみ山とともに暮らしていくしかない」という住民の話の聴き、昼食には手料理を味わい、フェアトレード製品に触れ、現地の様子を五感で感じる事ができました。今でもその場の状況を思い起こすと、言葉にはできないような感覚になります。息子にとっても、強烈な体験だったようです。また、多くの人に関心を持ってもらおうと活動しているスタッフの姿にも大きな影響を受けました。抽象的ですが、人との関係を大切に、自分や他人に対して互いに好ましい影響を与え合うという関係を意識していくと、少しずつでも良い方向に向かうのではないかと信じています。

帰国後、私も様々なレベルで人との「つながり」を以前よりも一層意識するようになりました。私一人ができることはわずかですが、そのわずかでも継続していくこと、アイキャンやフィリピンと今後もつながっていければと考えています。

